

### 3. 経済学部

#### 【到達目標】

本学部では、高校レベルの基礎的な学力（読解力、理解力、思考力、創造力、意思疎通能力など）において優れた能力をもつ学生の受け入れを目的に次の5点を到達目標とする。

- ①本学部の学生定員を上回らないように管理を徹底する。
- ②本学部が採用する各種入学試験の選抜において、高校時の学習の成果を適切に評価できるように工夫を行う。
- ③スポーツ等学業以外の諸活動の成果を選定基準に含める入学試験においては、諸活動と学業の双方に優れた生徒を選抜する仕組みを確立する。
- ④指定校推薦においては、学業のみならず人格的にも優れた生徒を受け入れるべく高等学校と連携を強める。
- ⑤外国語学校在学経験者（帰国生徒等）の入学試験において、これら生徒の特性を評価できるように入学試験に工夫を行う。

#### 【現状説明】

##### 1) 学生募集方法、入学者選抜方法

2008年度における本学部の募集人数1,100人（経済学科750人、現代ビジネス学科350人）に対して合格者総数は2,632人（経済学科1,882人、現代ビジネス学科750人）であった。2009年度も募集人数は1,100人であり、次の4種の入学試験によって選抜される。

- ①各種推薦入学試験
- ②社会人・社会人特別・帰国生徒等・外国人入学試験
- ③大学入試センター試験利用の入学試験
- ④給費生試験・一般入学試験(前期・後期)。

以下では、本学部独自の入学者選抜方法のみの現状を説明する。全学共通の入学者選抜に関しては「1. 全般的状況」を参照されたい。

本学部独自の入学者選抜方法は、各種推薦入学試験のなかの、i) 公募制推薦(経済学部講座+ディスカッション)入学試験、ii) 公募制推薦(現代ビジネス学科 英語検定有資格者)入学試験、のみである。

##### i) 公募制推薦(経済学部 講座+ディスカッション)入学試験

現代の社会や経済に対して強い興味や関心を持ち、主体的に物事を考えることができる人材を求める入試制度である。この目的から、選考方法は、第一次試験を書類審査と「課題(600字以内の論述)」、第二次試験を試験当日に実施する講座またはビデオの内容に関する小論文、グループディスカッション、面接試験によって総合評価を行う。

##### ii) 公募制推薦(現代ビジネス学科 英語検定有資格者)入学試験

国際社会とコミュニケーションに関心を持ち、能力を備えた人材を求める入試制度である。受験資格は、実用英語技能検定(日本英語検定協会)2級以上、TOEFLインターネット版 iBT(45点)、コンピュータ版 CBT(133点)、ペーパー版 PBT(450点)、TOEIC(500点)以上のいずれかを過去一年以内に取得したものであり、この証明書と学校長の推薦を必要とする。入学試験は筆記試験(国語力に関する試験)及び面接試験(日本語による面接)の総合評価で行う。

##### 2) 入学者受け入れ方針等

本学部の理念と目的に基づき、以下のような人材を求めることを方針としている。

- ①日本及び世界の経済動向を正確に理解し、社会の要請に応えることのできる人間たらしめんとする者

②高い学識と教養を備え、判断力を持つ人間たらしめる者

①及び②を満たしうる人材を受け入れるべく、本学部では、高校レベルの基礎的な学力（読解力、理解力、思考力、創造力、意思疎通能力など）を、多面的な角度から問う各種入学試験を実施している。

### 3) 入学者選抜の仕組み

#### ①入学者選抜試験実施体制

入学試験の実施については、問題の作成、入学試験のスケジュール、入学試験の実施等、全学的な体制がとられており、本学部の教員2名が入試管理委員として、入学試験の方針等についての本学部の意向を全学に伝え、入学試験に関わる諸事項の決定に加わっている。

#### ②入学者選抜基準の透明性、公正性・妥当性を確保するシステム

面接が選抜の手段となっている各種入学試験において、面接担当者、面接における質問項目、面接に際しての受験者との接し方等は、教授会メンバーの総意によって決定されている。個々の受験生に対する面接は、合格を前提としている指定校推薦入学試験では、受験生と面接担当者が1対1で行っているが、選抜を必要とする場合には3名以上の面接担当者によって行われ、個々の面接担当者による恣意性が生まれないような仕組みとなっている。

合否の決定については、給費生試験、一般入試、大学入試センター試験利用入学試験では、大学全体の合否判定会議に、学部から学部長、4人の主任を含む10人ほどの学部代表が出席し、本学部の受験生の合否はこの代表によって決定される。

また、各種推薦入試、社会人・帰国生徒等入学試験については、試験終了後に教授会が開かれ、総合的な基準に基づいて合否を判定している。

### 4) 入学者選抜における高大の連携

高大連携が特に重要となるのは指定校推薦入学試験である。本学部では、指定校推薦による入学者の入学者総数に占める割合は2008年度21.5%であり、入学試験における割合が徐々に高まっている。高等学校との関係も概ね良好であり、相互の誤解等がないよう説明もなされている。

### 5) 社会人の受け入れ

社会人入試では、満23歳以上の者と社会人（家事従事者も含む）の経験が3年以上ある者を社会人として受け入れており、2007年度、本学部に対する受験者が7名、合格者7名となっている。また、イブニング制度に基づく社会人特別入試の2007年度の受験者は5名、合格者5名であった。

社会人向け入学試験を利用して本学部に入学者の在籍者数は1～4年次を合計すると、2005年度は0人、2006年度は5人、2007年度は8人であり増加傾向にある。また、第二経済学部では2006年度より学生の募集を停止しているため減少し、2005年度48人、2006年度35人、2007年度28人であった。

### 6) 定員管理

2005年度まで本学部の入学定員は740人であり、超過率は1.3倍前後であった。しかし、2006年度に第二経済学部の学生募集が停止されたことに伴い、本学部の入学定員は経済学科750名、現代ビジネス学科350名の合計1,100名に増加し、これに伴い定員の実質化がはかられ、入学者数が定員を超えないことが全学的に約束された。

### 7) 編入学者、退学者

#### ①退学者の状況と退学理由の把握状況

退学者の状況と理由については全学的に調査が行われている。2007年度における本学部の学年別の退学者数と退学の理由は以下のとおりである。退学者数は1年次から

4年次まで合計すると159人であり、本学部の学生数(4,524人)のほぼ3.5%が退学している計算になる。

経済学部の2007年度の退学者数と理由 (単位：人)

退学理由	1年次	2年次	3年次	4年次	計
除籍	1	10	9	27	47
学修上の理由	1	14	2	16	33
他校入学・受験	9	9	1	5	24
進路変更	2	3	2	4	11
海外留学・渡航	0	2	0	0	2
就職	1	3	5	8	17
経済上の都合	2	3	1	8	14
家事都合	0	1	1	2	4
一身上の都合	1	1	0	1	3
勤務の都合	0	0	0	0	0
健康上の理由	1	1	0	1	3
死亡	1	0	0	0	1
計	19	47	21	72	159

## ②編入学

2年次と3年次に編入の制度がある。短期大学の廃止が進んだ2000年代初めには短期大学からの編入が多かったが、専修学校からの編入の制度が設けられた1999年以降、専門学校からの編入が主流となっている。ちなみに、2005年度は専門学校からの編入学は4人であった。

## ③転部転科

転部転科試験によって、2年次、3年次への転部転科の道が開けている。本学部への転部は第二経済学部と経営学部からが多い。しかし第二経済学部に関しては2006年度に学生募集が停止したため2008年度以降は受験資格をもつ者がいない。

2006年度における同試験の受験者及び合格者は以下のとおりである。

経済学科	2年次	受験者 22名	合格者 11名 (3年次志願者1名を含む)
	3年次	受験者 12名	合格者 4名
貿易学科	2年次	受験者 6名	合格者 3名
	3年次	受験者 4名	合格者 0名
第二経済	2年次	受験者 0名	合格者 1名 (3年次志願者1名を含む)
	3年次	受験者 2名	合格者 0名

## 【点検・評価】

### 1) 学生募集方法、入学者選抜方法

給費生試験・一般入学試験の合格倍率は、本学他学部・他学科の同選抜方式と比べて比較的安定し、概ね4倍前後である。また合格最低点も約190点から200点台の20点のレンジに収まっている。この主な要因は、総合格者数に占める指定校制推薦入試利用合格者の比率を本学平均に近づけたことにある。

スポーツ・音楽推薦入学試験は、学業とスポーツ・音楽の両立を目指す学生の大学への

受け入れをその主眼とするが、受験生のスポーツ・音楽の技術水準を判定する基準が不明瞭と判断される場合が散見され、また本学部の選抜において学業の評価が軽視される傾向がみられる。今後、この種の客観的で公平な基準に基づいた技術水準の判定がなされる必要がある。

外国高等学校在学経験者入学試験では、資格をもつ受験生のうち、1)海外の現地校を卒業・在学した日本人学生、2)海外の日本人学校を卒業・在学した日本人学生、の外国語試験の成績がよくない。このことは、受験生の語学力が低いという問題とともに、外国語試験科目が海外の学校を卒業した学生を選別するのに適したものになっていない可能性もあり、検討が必要である。

## 2) 入学者受け入れ方針等

入学者受け入れ方針と学部の理念・カリキュラムとの整合性は、入学後の成績からはかることができる。

サンプル数が試験種別に異なるが、指定校推薦入学試験で入学した学生の入学後の成績は、その他の選抜方式による入学者と比べて概して良く、指定校推薦入学試験で質の良い学生が確保できているとよい。

また、スポーツ・音楽推薦による入学者の成績が低いという特徴がみられるが、他の入学試験に関しては、選抜方法と入学後の成績との関係にきわだった特徴はみられず、幅の広いカリキュラムに対応した多様な学力を有する学生の選抜に大きな問題はないとよい。

## 入学試験の種別と成績の関係

### 経済学科

#### 取得単位数

	2007年入学	2006年入学	2005年入学	2004年入学
ディスカッション	35.51	66.14	-	-
指定校推薦	39.19	71.98	115.54	131.05
給費生試験	36.57	62.27	102.54	124.46
センター利用	33.79	66.21	104.19	118.18
一般入試	34.81	66.15	103.42	125.72
留学生	30.25	69.75	91.30	100.75
スポーツ・音楽	29.90	55.04	96.55	121.49

#### 平均点

	2007年入学	2006年入学	2005年入学	2004年入学
ディスカッション	77.58	75.77	-	-
指定校推薦	78.35	77.30	78.09	77.35
給費生試験	77.78	76.04	76.32	76.80
センター利用	76.27	75.74	76.67	75.94
一般入試	76.21	74.96	75.76	75.94
留学生	75.20	74.68	77.70	75.66
スポーツ・音楽	71.52	72.12	72.86	73.23

現代ビジネス学科  
取得単位数

	2007年入学	2006年入学	2005年入学	2004年入学
ディスカッション	36.35	74.89	-	-
英語検定	30.71	-	85.00	-
指定校推薦	37.98	71.56	109.42	132.34
給費生試験	33.43	70.19	113.45	119.42
センター利用	35.72	67.78	91.14	119.50
一般入試	32.90	63.11	96.84	122.66
留学生	34.40	62.17	99.93	124.00
スポーツ・音楽	36.29	47.25	89.00	126.40

## 平均点

	2007年入学	2006年入学	2005年入学	2004年入学
ディスカッション	75.91	75.18	-	-
英語検定	77.97	-	71.58	-
指定校推薦	79.15	77.11	76.76	77.35
給費生試験	76.66	76.78	77.54	79.13
センター利用	76.37	75.95	74.29	75.17
一般入試	76.06	74.40	74.90	76.09
留学生	76.71	73.90	78.09	77.90
スポーツ・音楽	74.16	72.41	71.63	73.70

### 3) 入学者選抜における高大の連携

指定校制推薦入試は、推薦を受ける学生の質が保証されている点で有効に機能しているといつて良い。高等学校との意思の疎通も概ねはかられている。ただ、本学部の教育理念や意向が高等学校側に十分伝わっていないケースもみられ、さらに連携を強める必要があろう。

### 4) 社会人の受け入れ

第二経済学部の学生募集の停止によって、社会人の受け入れは昼夜間開講の社会人入学試験と夜間開講の授業(6,7時限)を受ける社会人特別入学試験となったが志願者は少ない。在籍学生数に対して1%にも満たず、制度が十分活用されていないのが現状である。

### 5) 定員管理

「学部・学科の学生定員及び在籍学生数」(2008年度)(大学基準協会基礎データ表14)によれば、編入学定員を含めた本学部の収容定員は4,040名であるが、在籍学生総数は4,524名で、定員の1.12倍の学生が在籍している。

本学部では2006年度に入学定員が大幅増加した。これは定員の実質化を前提としたものであり、入学者数を入学定員以内とすることを前提としている。教室不足、教員の加重負担など教育環境を鑑み定員管理を厳密に行う必要がある。

### 6) 退学者

退学理由は多様であり、大学への不適応、学修能力の不足、経済問題等、学修に困難をきたす様々な事情が背景にある。学年別で見ると、4年次、2年次、3年次、1年次の順が多い。

退学の理由でもっとも多いのは授業料未払いによる「除籍」で30%を占めているが、こ

これは学生による説明がないため具体的内容は不明である。

続いて多いのは「学修上の理由」で21%を占めており、2年次と4年次で際立って多い。2005年度まで進級制がとられており3年次への進級には44単位以上の修得が条件となっていたが、2006年以降の新カリキュラムでは進級制は廃止されている。廃止理由の一つは、進級制が2年次の「学修上の理由」による退学が多いためであったが、廃止の効果は現れていない。これは大学への不適応による退学が含まれているためと考えられるが、退学の理由説明からその数を把握することは難しい。また、この理由による4年次の退学は卒業の見込みが見つからないことが主たる理由であろうと推測される。

2年次における「学修上の理由」による退学者数の推移 (単位：人)

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
4	7	11	17	10	8	14

「他校入学・受験」は1年次と2年次で多く、本学に籍を置きながら受験勉強をしている学生がいることを示している。

この他、特に注目すべきは、「就職」と「経済上の都合」による退学である。「就職」は2000年以降の8年間でみると、ほぼ15人前後で推移し、「経済上の都合」は年度によって違いがみられる。経済的困窮による退学については十分な調査がされていない。

年度別 就職及び経済上の理由による退学者数 (単位：人)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
就職	16	14	19	14	16	17	12	17
経済上の理由	9	5	5	9	13	9	4	14

### 【改善方策】

- 1) 各種入学者選抜方法において、スポーツ・音楽推薦入学による学生の入学後の成績が芳しくない。これには複数の理由があるが、入学試験に高等学校における学業の成績を評価する基準が明確でないことが関係している。従って、スポーツ・音楽推薦による学生の受け入れにおいて、学業を含めて能力の高い生徒を選抜する基準を明確にすべく検討を始める。また、受験生のスポーツ・音楽の技術水準を判定する基準が必ずしも明瞭ではなく、この点も選抜方法において改める方向で検討する。
- 2) 外国高等学校在学経験者入学試験は全学的な制度であるが、本学部においては海外の現地校を卒業・在学した日本人学生、海外の日本人学校を卒業・在学した日本人学生を評価できる適切な外国語試験のあり方を検討し改善を行う。
- 3) 入学者受け入れ方針と学部の理念・カリキュラムとの整合性を測る上で、入学試験の選抜方法と定期試験成績との関係は重要なメルクマールとなる。今後も継続して調査を行い、各種の選抜方法による定員の調整を行うことで入学試験の公平性を保ち、本学部の教育理念を遂行する条件を整える。
- 4) 学部定員の実質化により定員をオーバーする入学者の受け入れは望ましくない。定員超過を招かないよう定員管理をしっかり行い、今後4年間の学生数を、退学者を含め合計4,400人以内に収めることとする。
- 5) 退学は、学修上の理由、大学への不適応、経済的困窮などさまざまな理由によるが、本学部ができることは、教員と学生のコミュニケーションを密にするための環境を整えることが必要である。本学部では双方向的授業の増加、オフィス・アワーの充実化

を目指しており、この改善を行うことで一定の効果をあげることができであろう。本学部では「第3章 教育内容・方法」で述べたように、こうした点の改善を行うことになる。しかし、学生数が多く、教員1人当たりの学生数が多いという現状があり、学生支援のための全学的な対応が必要となろう。